

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370500597		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホーム ぽっかぽか		
所在地	〒025-0072 岩手県花巻市四日町二丁目1番1号 (電話)0198-21-3222		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年10月1日	評価確定日	平成19年11月27日

## 【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	10.5

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建て, 1階 ~ 2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~60,000 円	その他の経費(月額)	理美容、おむつ代等実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	315 円	昼食 315 円
	夕食	315 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 1,050 円		

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 79 歳	最低 67 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木クリニック、とみつか脳外科クリニック、ゆかわ脳外科クリニック、
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、株式会社グランツの運営する事業所の1つで、JR花巻駅から徒歩で10分ほどの街中に位置している。近接して住宅が密集しているが、交通など周囲の騒音はほとんど無く、まさに地域に密着した立地環境となっている。利用者一人ひとりの願いを叶えることを基本に、利用者と職員が支えあい、利用者との馴染みの関係保ちながら、ゆったりとした生活をしている。また居宅介護支援事業所やデイサービス、ヘルパーステーション、有料老人ホーム、小規模多機能型事業所、トラベルサポートなど、法人としては多彩な事業運営に取り組んでおり、それら他事業と連携がとりやすいことも大きな特徴となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では大きな改善課題はなかったが、権利擁護に関する理解や地域交流の必要性など、評価項目をもとに職員の意識が高まっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に、全職員が意見を出し合い話し合いを重ね、自己評価に取り組んでいる。自己評価のプロセスを通して、現にやっているケアの意味、やらなければならないケアの理由等について職員の気づきが得られている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、定期的に開催しており、主な内容は、利用者の状況、ホームの活動状況の報告、意見交換などとなっている。委員からは地域密着サービスに関する勉強会の開催要望が出されるなど、有意義な会議となっている。その一方で事業所の所在地区からの入所がまだない点で、地区住民の関心が薄く、会議への参加者が減ってきているという現状もあり、参加性を高めるために行事実施とあわせての開催も検討している。また地域と連携しての防災体制など、明確な目的をもった開催が今後期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは様々な機会において連絡や面談を行うようにしており、コミュニケーションの頻度は高い。家族からの明確な苦情はないものの、法事などの外出で職員の付き添い依頼など個別の要望は多く、極力要望に沿うようにしている。また利用者本人の要望を家族が代弁するという点においても、家族とのコミュニケーションは重視している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	住宅地の中にあるため、地域住民との距離は非常に近い。地域の祭りの見学や準備への参加、ごみ当番や回覧板届けといった自治会活動などに参加している。様々な地域活動に対して、地域の一員としてどこまで対応できるかといった難しさや、地域住民からの多様な意見もあるが、一つ一つ丁寧な対応を心がけている。開設当初と比較して徐々に地域住民の理解や協力も得られるようになってきている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	集団対応ではなく、小規模なグループホームだからこそできる個々の利用者へのきめ細かい対応を目指すものとして、利用者尊重の視点が簡潔に理念化されている。また法人名である「グランツ」は利用者の「願いをかなえる」という意味であり、基本的な理念を表わすものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新任職員に対しては、新任職員マニュアルによって意識付けを行うほか、朝晩の1日2回の申し送り、月1回のスタッフミーティングにおいて確認しあい、日常のケアの実践に取り組んでいる。	○	他の大規模施設から移ってきた職員には、集団対応の実践経験から法人の理念に馴染みにくいケースもある。その場合においても、一定期間の新人研修において理念を体験的に理解できるようにしている。地域に多様なサービスがあるなかで、グループホームとしての理念や独自性を、職員一人一人の姿勢において明確にしていく取り組みは今後さらに期待される。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に会費を納め加入している。新年会など地域の会合に参加するほか、花巻祭りなど地域の行事には可能な限り参加して、地域交流に努めている。	○	人口の多い地区に位置するため、地域との関係においては市街地特有の困難(音や夜間の照明に対するクレーム、農園作物の盗難被害など)もある。理解が得られる地域住民との交流を核としながら、様々な意見や状況に対して粘り強い対応が期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に全職員が意見を出し合っ、自己評価に取り組んでいる。この評価のプロセスを通してやっていることの意味、やらなければならない必要性などについて職員の気づきが得られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催されており、主な内容は、利用者の状況、ホームの活動状況、活動予定の報告、意見交換などとなっている。委員からは、地域密着サービスに関する勉強会の開催要望が出されるなど有意義な会議となっている。	○	会議にテーマを設定したり、必要に応じて消防や警察など委員以外の方の出席も考慮するなどして、より有意義な会議となるよう期待する。

岩手県 グループホームぽっかぽか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段の電話連絡や市からの受託事業(介護に関する勉強会など)の参加要請などを含めて、常に行き来するなどして、相談や連絡が緊密にとれる関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回の家族会開催や、毎月の介護サービス計画書の送付に合わせて、利用者の状況、職員の状況をお知らせしている。また状態変化など必要の都度、連絡を取り合っている。預かり金についても、毎月報告、面会時に確認をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し立て窓口を設置するほか、家族会も年に3回開催され、家族同士の話し合い、意見交換が行われている。家族アンケートを実施するなど、家族からの意見等がいただけるような工夫をしている。特に、意見等は出されていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員・事業所のケアのマンネリ化等防止、利用者との馴染みの関係の維持2つの観点から、必要最小限の異動にとどめている。異動や離職する際も引継ぎや申し送りを行い、出来る限り利用者にはダメージを与えないように努めている。	○	同法人の他事業所を利用していた人が入所したり、また他事業所へ利用が切り替わる人もあり、その場合でも顔馴染みの職員がいるよう配慮がなされている。利用者がサービスを切り替えても安心できる関係性の継続に、法人として対応できる強みを感じられる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の実施については、運営規程に明示している。ヘルパー資格取得に向けた研修受講など職員の希望する研修への派遣等に積極的に取り組んでいる。外部研修結果は、伝達研修を行い、情報の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や地域ケアサービス事業者連絡会、グループホーム協会(岩手県、ブロック)の定例会に参加するなどして、職員の資質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新たな利用に際しては、宿泊を含む2・3日のお試し(体験)利用により、ホームの雰囲気に馴染んでからの利用を基本としている。利用開始後も、はじめの期間は、頻りに自宅へ出向いたり、宿泊してもらうなどして、利用者の心の不安を軽減・解消に努めている。また必要に応じて隣接するデイサービスの利用から入所に移行してもらうケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事(皮むき、配膳等)、洗濯(洗い、たたむ等)、草取りなど、職員と利用者が一緒に活動する場面で、相互の信頼と気持ちの繋がりの中、学びあい、支えあいながら生活している。また花巻の歴史に関して、職員が知らなかった多くのことを利用者から学んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の家族等からの生活歴の聞き取りや普段の会話、表情等を通じての気づきなどから、思いや意向を把握するようにしている。家族アンケートによっても、随時、家族からの希望や意向を把握するように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態、本人家族の意向、担当職員の意見を踏まえて、計画作成担当者が、原案を作成。スタッフミーティングで原案を検討し、利用者家族と最終調整のうえ確認・同意をいただいている。	○	利用者にとっての自由な生活の尊重と安全性の考慮に関しては、家族における理解が困難な場合もある。利用者本人の「願いをかなえる」という事業所理念に基づいて、今後も家族との緊密なコミュニケーションが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に対応するため、毎月のミーティング及び3ヶ月ごとのモニタリング結果を踏まえて、必要な見直しをしている。	○	介護計画の様式は、家族にとっても内容がわかりやすいよう配慮されたものとなっている。サービス提供における家族との共通理解をはかる上で、有効なコミュニケーションツールとして捉えることができ、家族にとっての理解のしやすさという視点は継続しての配慮が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、墓参や法事への外出支援等、一人ひとりの思いや希望に合わせて、柔軟かつ臨機応変に対応している。また法人としては、居宅支援事業所やデイサービス、有料老人ホーム等も運営しており、利用者の状況変化に対して法人としての柔軟性も備えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望する主治医による受診や家族同行が難しい場合などは、職員による通院支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の認定を受けている。終末期等の過ごし方について家族の意向を叶えられるようにしている。協力医療機関にも、その意向を伝えて、協力を依頼している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	普段の言葉遣いについては、気がついたときに職員間で注意しあうほか、認知症対応マニュアルを活用して、利用者の尊厳に配慮した対応をしている。個人情報は、本人家族の同意の下、必要最小限の提供に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や理美容院利用、散歩など、利用者一人ひとりの希望やペースに合わせた対応をしている。健康を維持するために規則正しい生活は基本としながらも、寝坊や夜更かしなど、個々のペースにあわせた対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の食べたいものを取り入れて決め、買い物、調理、盛付け、配膳、食事、下膳などは、職員と一緒に行うなどして、和気藹々、楽しみながら食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の日・時間等、利用者のリズムで入浴できるように努めている。足湯等事業所外での入浴についても、可能な限り、利用者の意向に沿って対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農園での作業、皮むき・盛付等食事での作業、タオル・新聞畳みなどの場面で、利用者一人ひとりの状態と意欲に応じて、役割意識を持ち、かつ気晴らしができ、楽しく変化のある生活を送ることができるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、空港見学等、利用者一人ひとりの思いや希望に応じた外出支援のほか、敷地内に農園を整備するなどして、常に外で活動できるように努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを基本としている。利用者が一人で外出したいときには、さりげなく遠くで見守るなどして外出させ、外出を抑制したと思われないようにして、利用者の満足感を満たすような工夫をしている。当日も外で喫煙する利用者の様子から、自由な出入りへの気配りが感じられた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。災害等緊急時の対応マニュアルを作成し、全職員が内容を把握、確認しあって、災害時に備えている。	○	地域の方々の協力が得られるように、運営推進会議を通じた働きかけを期待する。また2階部分からの避難装置も設置されているが実用性が薄く、今後改装を検討している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の摂取量については、毎日、記録しチェックしているほか、利用者の状況に応じて食べ物の硬さや大きさ、とろみなどについて気くばりをしている。献立や栄養バランス等については、毎日、職員栄養士が対応している。夜中でも水分補給が必要な利用者もおり、夜勤職員がいつでも飲めるよう対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、ソファやテレビ配置、絵画や季節の花を飾るほか、水槽で金魚を飼っている。リビングと台所が接していることを活用して、食事等調理の音や匂いが生活感を感じることができるように工夫している。また煙草を吸う利用者に配慮して、屋外にソファを設置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた、仏壇、神棚、コタツ、テーブル、箆笥、人形など、それぞれ持ち込み、思い思いに部屋に配置して、快適に住まいをしている。		